第3種郵便物認可　新聞定価1ヵ月4960円（内消費税370円）・1部260円（消費税込み）　繊維　石油　薬剤　日刊　2024

日本人若手の活躍続く

伊コンクール「イッツ2023」

佐藤百華さんが大賞受賞

澁木智宏さんは複数の賞を獲得

イタリア・トリエステで、21回目になる若手デザイナーのコンクール「イッツ2023」（イッツ財団主催）の授賞式が3月22日行われた。昨年に選考した作品だが今年にずれ込んだ。日本人の入賞が続く同コンクールは今回も日本勢が活躍した。大賞に相当する「イッツ・アーカデミー賞」に佐藤百華さん（文化服装学院出身）が輝いた。また、未来のファッション産業に寄与するプロジェクトに与えられる「イッツ・チャレンジ・ザ・ステータス・クオ賞」（チャレンジ賞）、優秀アート作品に授与される「ゴー！25・ボーダレス賞」（ゴー賞）、スニーカーのデザイン賞「イッツ・スポーツウェア賞　準グランプリ」に澁木智宏さん（武蔵野美術大学、ここのがっこう出身）が選ばれた。

（ミラノ＝高橋恵通信員）

佐藤百華さん「イッツ・アーカデミー賞」受賞作品

佐藤さんはコロナ禍で会えずに亡くなった祖母への思いを表現した、繊細なレースを重ねたノスタルジックなコレクション。「人生において、初めて〝死〟というテーマに向き合った。茶道、華道、墨絵など、日本の伝統文化とクラフトマンシップに造詣の深かった祖母に敬意を表し、四十九日を経てユートピアに旅立つ魂の物語をつづった」という。副賞として賞金1万5000㌦を獲得した。

「深いストーリー性を評価した」というイッツ財団のバルバラ・フランキン会長は、ファイナリストの意識の変遷について、「2000年代初頭は、だれもがスターデザイナーになりたかった。今は小規模でもアーティスティックな方向性を追求しつつ、ネットワークを構築して、チームで仕事をしようとする傾向にある。今回、授賞式前にファイナリストを集めたワークショップを行い、その絆を深めた」と語る。

澁木さんは、端切れや古着、昔の日本のラベルや駄菓子の袋などに羊毛のフェルトわたを重ねてニードルパンチした素材を用い、オーバーサイズのストリートウェアと大きな布のオブジェを作った。ニードルパンチの技法は、特許を出願している。ろっすらと雪をかぶったような服は「フェルトのベールで包むことで、もとの素材が一緒につながり連帯し、優しい印象を醸し出す」と語る。

澁木智宏さんの「イッツ・チャレンジ・ザ・ステータス・クオ賞」（左）と「ゴー！25・ボーダレス賞」の受賞作品

チャレンジ賞を審査したサステイナブルビジネスコンサルタントのマッテオ・ウォルド氏は、澁木さんの作品を「美しく、平和な気持ち、ソフトであいまいなムードを表現していたのと同時に、古いものを新技術でアップサイクリングし生まれ変わらせた点も評価した」という。

今回、「アグレッシブにサステイナビリティーを主張する服」を作ったデザイナーも多かったが、それを前面に押し出すことなく静かに伝え、夢を与えた作品が評価された。ウォルド氏は「サステイナブルは〝やらざるを得ないこと〟ではない。文化であり、プロジェクトなのだ」と主張した。

澁木さんにはゴー賞の副賞として賞金1万㌦、チャレンジ賞の副賞としてイタリアの再生カシミヤメーカーやファッションラボラトリーなどの訪問ツアーが贈られた。4月にブリュッセルで開かれるサステイナブルとインクルーシブをテーマにした「ニュー・ヨーロピアン・バウハウス・フェスティバル」への参加も決まった。

佐藤さんは昨年、自身のブランド「ユークロニア」を立ち上げた。澁木さんは既にアーティストとして活躍している。

審査員の一人、カルラ・ソッツァーニ財団のサラ・マイノ氏は「若手デザイナーの作品は、我々の周りに起きていることのサーモメーターだ。今回は、家族とのつながり、自分のオリジンを語るデザイナーが多かった。サステイナビリティーやエシカル（倫理的な）もスタンダードに。クラフツマンシップに焦点を当てる服作りも目立った」とする。

「イッツ2024」については未発表だが、25年の「イッツ2025」は、トリエステ近くのゴリツィアが欧州文化首都となることから、その文化事業とからめたイベントとなる予定だ。